



ご自由にお持ちください

# みんなのみなと

「みんなのみなと」は皆さんにとって身近な病院になりたい、皆さんと職員が一つになってこの病院を作っていききたいという思いで命名しました。



今号の表紙は、2年目の薬剤師たち。  
「これからは病棟を担当します。頼りになる薬剤師を目指して頑張ります！」

**病院の理念** 赤十字精神のもと、患者中心の良質な医療を提供して、地域の健康増進に貢献する。

## 巻頭特集

# 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」活躍中!

—前立腺癌・腎臓がん手術に対応—

第12号

病院  
広報誌

医療は低侵襲の時代、我々もそれにこたえられるように…

# 手術支援ロボット ダ・ヴィンチ 活躍中!

— 前立腺癌・腎臓がん手術に対応 —

泌尿器科部長 土屋ふとし

## からだに優しい手術

がんの手術方法は、大きく2つに分けられます。1つは、ある程度の大きさに皮膚を切開し、医師が自分の目で見て、がんを直接切り取る「開放手術」(開腹・開胸手術)。

もう1つは、お腹の数カ所に小さな穴を開け、そこから特殊なカメラや手術器具を入れて、医師はモニターに映し出された画像を見ながら手術する「鏡視下手術」(腹腔鏡・胸腔鏡手術)です。ダ・ヴィンチは後者に当たります。つまり「切る・縫う」が極端に少なくなり、患者さんの身体への負担が軽く、術後の回復が早くなる身体に優しい手術なのです。

医学用語ではこのようなことを「低侵襲」といいます。

## ダ・ヴィンチ手術の これまでとこれから

「ダ・ヴィンチ」はアメリカで開発された内視鏡手術支援ロボットです。ロボット手術はまるで自分の手のように直感的にロボットのアームを動かせるので扱いやすく、3Dモニターの拡大視野の下で人間の手よりも細かな作業が可能です。

日本では2012年に前立腺癌に対する手術が保険適応になって以来、爆発的に件数の増加がみられ、

昨年度だけでも14,000件弱の手術が行われています。

また、昨年からは腎臓に対する腎部分切除が保険適応(腫瘍の大きさに条件があります)となり、全国で1,700件弱が行われています。

当院では2014年2月にロボットを導入し、3年以上が経過しました。

その後手術件数は順調に伸び、200件に達しました。これまでの当院のデータをみなさまにご報告します。

まずは、以前行っていたお腹を大きく切つて行う開腹の前立腺手術と比べてみると、確かな利点とされる手術中の出血の減少、手術後の痛みの軽減などは当院の結果でも予想されたとおりに認められました。

## 進行したがんでも 完全に取りきることを目標に

当院では、より進行したがんに対しても取りきることを目標として治療をしています。

手術の一番重要な点である結果は、周りにがん組織を残さず取りきることで評価され、当院は良好な結果が得られています。

一方、前立腺癌に対する手術後の代表的な合併症として尿失禁が挙げられます。前立腺に周囲の脂肪





組織などをつけて大きく取れば、がんを取りきれ  
 確率は上がりますが、その一方で近くに存在する神  
 経組織などにダメージを与えることになり、術後の  
 勃起・排尿機能などに影響を与えることとなります。  
 ロボット手術も決して万能ではなく、合併症を完  
 全に避けることはできません。

今後は、がん組織を残さず切り切りながら、この  
 手術の代表的な合併症である尿失禁の発生率を抑え  
 られるよう図ってまいります。もし、ご質問等がご  
 ざいましたらお気軽に主治医にお尋ねください。

### 安全性とチームワークの重要性

ロボット手術は新しいシステムなので安全性が重  
 要です。

手術に参加する一人ひとりの、解剖に対する深い  
 理解、機械の特性の把握と操作の習熟は当然のこと  
 ですが、常に安全を意識し、万が一トラブルが生じ  
 ても迅速かつ冷静に対処できるようにチームづくり  
 を強化しています。ロボットチームは医師、看護師、  
 臨床工学技師で構成しています。

たとえば、ロボット手術は良好な視野確保のため  
 に、患者さんの頭を20数度程度下げて、二酸化炭素  
 でお腹を膨らませて行うことによる合併症がありま  
 す。術後の肩痛、頭部保護のためのヘッドギアによ  
 る頭皮の圧迫などがそれに当たりますが、そうした  
 事例が起こるたびに、ロボットチームで検討を重ね、  
 改善してきました。導入初期に見られたこうした合  
 併症も最近では非常に減っています。

今後も安全を追求し、トラブル発生時にも、きめ細  
 やかに対応できるロボットチームを目指してまいりま  
 す。

### ロボットチーム：

高い専門スキルを持った医療ス  
 タッフ（医師、看護師、臨床工  
 学技士）が、安全な医療を提供  
 できるよう丸となって取り組ん  
 でいます！



# INFORMATION

## アレルギーセンター講演会のお知らせ

### ●関節リウマチ教室

第4回

11月7日(火)

関節リウマチの合併症 講師：萩山医師

第5回

1月30日(火)

リハビリテーション 講師：小泉理学療法士

### ●成人喘息教室

第2回

11月1日(水)

もっと知ろう！吸入療法のこと 講師：片岡看護師

### ●小児喘息・アレルギー教室

第2回

10月26日(木)

小児の食物アレルギー 講師：磯崎医師

第3回

2月22日(木)

小児のアトピー性皮膚炎 講師：安藤医師

◆会場：当院3階 大会議室

◆問い合わせ先：当院アレルギーセンター  
045-628-6381



## 糖尿病講習会のお知らせ

### ■平成29年10月から2月のスケジュール



#### ●10月19日(木) 第4週

14:00-15:00 「知って安心！～糖尿病の薬物療法と副作用～」(足立医師)

15:00-16:00 「こんな時どうする？～外食・中食のポイント～」

(楽しくグループワーク)(小林管理栄養士)

#### ●11月16日(木)

14:00-15:00 「食事療法の最近の話題～糖質制限食の是非など～」(太田医師)

15:00-15:30 「こんな時どうしよう？

～体調の悪い時の過ごし方～」(金沢看護師)

15:30-16:00 「誘惑に負けないぞ！

～年末年始の楽しみ方～」(武藤管理栄養士)

#### ●1月18日(木)

14:00-15:00 「糖尿病と眼疾患～糖尿病で失明しないためには～」(小松医師)

15:00-15:30 「糖尿病の血液検査

～自分の数値を見直そう～」(藤原臨床検査技師)

15:30-16:00 「糖尿病性腎症を防ぐ食事とは？」(渡邊管理栄養士)

#### ●2月15日(木)

14:00-15:00 「癌、骨粗鬆症、歯周病～糖尿病との関連について～」(増田医師)

15:00-15:30 「身体機能に応じた運動療法について

～車いすの方でも行える運動～」(小泉理学療法士)

15:30-16:00 「脳梗塞や動脈硬化を防ぐ食事とは？」(古川管理栄養士)

◆会場：横浜市立みなと赤十字病院 3階 大会議室

◆日時：毎月第3木曜日 14:00～16:00 ※4・8・12月はお休みです。

◆講師：医師・管理栄養士・看護師・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師・  
歯科衛生士

◆問い合わせ先：

横浜市立みなと赤十字病院 外来業務課 045-628-6330

**参加費・事前予約不要です！**

当院通院中の方、他院通院中の方、どなたでも受講可能です。  
お気軽にご参加ください！



## 人間ドック健診施設機能評価の認定を取得しました

6月に「人間ドック健診施設機能評価」の認定を取得しました。この評価は、受診者の皆様が安心して質の高い人間ドックを受けられるかどうかに関心を置いたものです。

当院が特に高い評価を受けた項目は、活発な啓発活動と地域との良好な関係、各科専門医の充実による健診の質の確保、積極的な学術活動による有用な健診の確立への貢献、確実な結果説明でした。

これからも、受診者の皆様が健やかな心身を保ち、満足度の高い毎日を過ごすことができますよう、お手伝いさせていただきますと考えています。

健診センター長 伊藤美奈子



人間ドック健診施設機能評価認定証



人間ドック健診施設機能評価認定証(楯)



笑顔と真心でお待ちしております。



# 管理栄養士オススメレシピ!

## 秋の味覚でたっぷり食物繊維♪ カッターチーズサラダ

### 【栄養成分】(1人分)

エネルギー:144kcal, たんぱく質:5.9g,  
脂質:3.9g, 塩分:0.6g, **食物繊維:2.4g**

リンゴやホイップクリーム  
を追加したデザートサラダ  
もおすすめです



### 【材料】(2人前)

さつまいも……………	中1/2本(80g)	はちみつ……………	小さじ1/2
かぼちゃ……………	60g	レモン汁……………	小さじ1/2
レーズン……………	10粒程度	塩……………	ふたつまみ
くるみ……………	2~3個	こしょう……………	少々
カッターチーズ……	大さじ4	サラダ菜……………	2枚
牛乳……………	小さじ2		

### 【下処理】

- さつまいも : 2cm大の角切りにし、10分程度水にさらす。崩れない程度の固さに茹でる。
- かぼちゃ : 2cm大の角切りにし、崩れない程度の固さに茹でる。
- レーズン : 湯にさらし、汚れを落とす。
- くるみ : 好みの大きさに砕く。

### 【作り方】

1. ボウルにカッターチーズ、牛乳、はちみつ、レモン汁、塩、こしょうを入れ、よく混ぜ合わせる。
2. さつまいも、かぼちゃ、レーズン、くるみを加え、さっくりと混ぜ合わせる。
3. 器にサラダ菜をしき、盛り付ける。

クラッカーにのせても♪



### ◆◆◆Point◆◆◆

- ・食物繊維の豊富なさつまいも&かぼちゃで作る変わりサラダ!!
- ・カッターチーズとは? 乳脂肪分を除去した脱脂粉乳から作られるヘルシーチーズです。
- ・マヨネーズをカッターチーズで代用し、エネルギーと脂質を大幅にカット♪



※カッターチーズ商品例

使用料当たり (30g)	エネルギー (kcal)	脂質 (g)
マヨネーズ	200	22.4
ハーフマヨネーズ	98	10.2
カッターチーズ	32	1.4

## 【入院】への不安を解消します ~入院支援センター始動~

当院では今年4月から「入院支援センター」を開設しました。

入院の手続きをする「入院受付」はもちろんのこと、サービス向上を目指した、新しい試みです。

今までは、入院が決まると、看護師、薬剤師、事務員がそれぞれの場所でそれぞれの説明をし、患者さんにご負担をおかけしていましたが、入院支援センターでは、患者さんはそこから動くことなく、看護師や薬剤師など、それぞれの職種が来て、順次ご説明するというものです。

現在はまだ一部の診療科しか行っていませんが、入院するにあたって不安を無くすというコンセプトのもと、看護師・薬剤師・事務員が一丸となってご対応します。

まず、看護師が手術の説明・入院中のスケジュールを説明します。

次に薬剤師が服用している薬のチェックをし、手術前に服用を中止とした方がよい薬について説明します。アレルギーをお持ちでしたら、食物アレルギー・薬剤アレルギーを電子カルテに入力し、情報共有の上で管理し、万全の体制で入院に備えます。

最後に事務員が、入院時にご用意いただくもの・書類を説明するという流れになります。

今後は順次拡大予定で、対象診療科を増やしていき、より多くの患者さんの入院をサポートできるようにしてまいります。

「入院支援」を利用された患者さんを対象に6月16日から行ったアンケートでは、約73%の方々から、入院に対する不安は無くなったという評価をいただきました。

患者さんが不安なく入院生活がスタートできるよう、今後も日々努力してまいります。そして患者さんが『みなと赤十字病院』を選んで良かった、開業医の先生達に『みなと赤十字病院』を紹介して良かったと、一人でも多くの方に思ってもらえるようになるのが、私共職員の目標です。



ご不明なことは何でもお問い合わせください



入院支援センター運営委員会の会議風景



# 知っているようで知らない 正しいお薬の飲み方

治療の途中で薬をやめてしまったり、病院で処方された薬を飲んでいながら市販の薬を合わせて飲んでしまったり……。このように用法・用量を守らずに誤った使い方をすると、期待される効果や安全性に影響が出ることがあります。また治療が長引き回復が遅れてしまうことがあるので、薬は用法・用量を守って正しく使いましょう。

## \*服用時間を守りましょう

薬の服用時間には、食前、食間、食後などいくつかの用法があります。食前・食間・食後には、それぞれ意味があり、食事によって変化する胃の状態に合わせて服用時間が決められています。また、これ以外にも食直前（食事の直前）や食直後（食事のすぐ後）、就寝前、もっと厳密に何時と何時など医師が指定する薬もあります。正しい飲み方をしないと効果がでなかったり、副作用が現れたりすることがありますので、決められた服用時間を守りましょう。



## 食後は……

食事が終わって20～30分後までのことです。食事の後は胃の中に食べたものがあるので、胃への刺激が少なくなります。食後の薬は飲み薬の中で最も多いタイプです。主に食べ物と一緒にのほうが吸収が良くなる薬や空腹時に飲むと胃を荒らす薬などは、食後に飲みます。（食事ができなかったからといって薬を飲まないで、体内の薬の量が低下してしまい、効果が得られないことがあります。クラッカーやクッキー1枚だけでも胃に入れてから薬を飲めば、食後に近い状態になり、胃の保護にもつながります。ただし糖尿病の薬の中には、食事をとらないで飲むと血糖値が下がりすぎてしまう薬もあるので注意が必要です。）

※食直後は、食後よりももっと食事のすぐ後のことを意味します。

## 食前とは……

食事の20～30分前のことです。食べ物や胃酸の影響を受けたくない薬や、糖尿病の際に食事で高くなる血糖値を下げるための薬などは、食前あるいは食直前に飲むことが多くなります。また、胃の調子を整える食欲増進剤や、食べたあとの吐き気を事前に抑える薬などは食前に飲むと効果的です。

※食直前は、食前よりももっと食事のすぐ前のことを意味します。

## 食間とは……

食事の最中だと思われる方も多いようですが、食事と食事の間という意味で、食事を終えてから約2時間後が目安です。空腹の状態でも吸収が良い薬や、胃の粘膜を保護するための薬などは食間に飲みます。

服用時間は薬の血中濃度も考慮して決められています。薬は、一定の血中濃度がある時に効果を発揮します。それより低いと効果が現れず、高すぎると副作用などの心配が出てきます。薬を飲んでから数時間たつと薬の血中濃度はだんだん下がってきます。これが下がりきらないうちに次の薬を飲むことによって、血中濃度を一定レベルに保つことができるのです。こうした意味からも服用時間を守り、規則正しく薬を飲むことが大切です。また、飲み忘れたから次の時にまとめて2回分を飲むというのは、血中濃度が上がりすぎて危険なことがありますので、まとめて飲むことはしないでください。

何かわからないこと、不安なことがあるときには自己判断で服用時間を変えたりせず、医師・薬剤師に相談しましょう。

## ～編集後記～

秋が深まってきました。

編集者はスポーツの秋！11月下旬にはハーフマラソンに出場予定で、時間を見つけては走っています。

運動後のお風呂は格別気持ちがよく、お食事（…ときどきお酒）も一段とおいしく感じられます。

みなさんも〇〇の秋を楽しんでくださいね (^\_^)

